

Project	地域協働専攻 国際協働グループ
	哲学カフェ@はこだて

08

哲学カフェ@はこだて

メンバー	[学 生] 前田 健太 / 木村 友香 / 井上 ゆいか / 小柴 杏奈 / 小林 大雅 / 後藤 あやめ / 瀧沢 愛 / 中田 寛人
	[担当教員] 菅沼 聡

【背景】

現在、函館において、サイエンスカフェなどと違い、哲学カフェが定期的で開催されているとは言い難い現状にある。そこで本プロジェクトで、哲学カフェを定期的で開催することによって改善しようと考えた。

【目的】

活動を通して、学生たちからの様々な意見を聞き視野を広げたり、大人の知識や経験を学び知見を増やしたり、新たな発見をする能力を身に着ける。

【概要】

事前準備では、哲学カフェを開催するにあたって、場所の確保やスムーズに進行できるように模擬練習を行い、実際に本番でやってみてよかったこと、改善点を出し、次実施するときに活かすことをし、計3回開催した。

【プロセスと成果】

前期はまず、メンバー全員が「哲学カフェとは何か」という本質を理解するところから始めた。過去の哲学カフェの実施例を参考に、それぞれが興味を持った哲学的テーマをいくつか持ちより、実際にメンバーでそのテーマについて話し合いを繰り返しながら、本番にふさわしいテーマを決めた。同時進行で、ポスター作り、開催日時と開催場所の検討など本番に向けての準備に取り掛かった。

本番は、コロナ渦であるため開催にあたって不安な点がいくつかあったが、感染防止対策を講じ、「シエスタハコダテ・Gスクエア」で前期7月22日、後期12月8日ともに無事に開催することができた。また今年度は新たな取り組みとして、10月5日の学校祭でも哲学カフェを開催し、計3回の開催を成し遂げた。主なテーマは、「男女の友情は成立するか」、「ジェンダー問題について」などであり、各テーブルで好きなテーマを選択し、1テーマ約10分程度の話し合いを行った。

成果としては、前期は集客が非常に困難であったことを踏まえ、後期は函館新聞に取材を依頼し、大きな宣伝効果が得られたこともあって参加者が増加した。学校祭では、友人や先生方に参加していただき、大いに盛り上がった。またアンケート結果では、満足度が非常に高く、ほぼすべての参加者が次回の参加にも前向きであることが分かった。



【メニュー作成の様子】



【実際の開催の様子】

【総括と反省・今後の課題】

「哲学カフェ」とは何かを考えるとところから始まったこの地域プロジェクトは前期に1回の開催、後期には初の試みとなる学期中2回の開催を通して、自分たちの「哲学カフェ」を構築していった。哲学カフェに使用するテーマ案を決める際には自分たちでも一つ一つそのテーマについて話し合い、その結果を見て採用していたのだが、何度も繰り返し話し合う中で、自分たちも哲学についての理解が深まったり、対話力向上にもつながったりした。また開催についても初めは効率よく席替えを行えなかったり、ファシリテーター役として参加していたメンバーも戸惑いがあったりと、中々うまくいかない部分があった。しかし、お客さんの声を聞きながら反省をし、改善を施すことで第3回目の開催では幅広い客層と、多数のお客さんに足を運んでもらい、たくさんのお褒めの言葉をいただけたので、確かな成果を感じる事ができた。

今後の課題としては、初めから最大の課題であった集客である。はじめはインスタグラムを使い学内の人へ、ポスターを使うことで高校生、地域住民へのアプローチを行っていたが成果は全く出なかった。2回目は学校祭であるため例外とし、3回目の開催前には函館新聞に掲載してもらい(報道の記録・P91に記事掲載)、それを見て数人が足を運んでくれたが、知り合いの誘いで来たという声や自分たちの友達が来ていたため、プロジェクト内集客の取り組みとしての成果は薄かったように感じた。そのため今後、この哲学カフェを引き継いでいく後輩たちには、より試行錯誤し、たくさんの方が来るよう取り組んでほしい。

【地域からの評価】

本プロジェクトである哲学カフェを通して地域の方々に様々な年代の方々が自分たちの提供したお題に対して自分の意見を交え、「違った観点からの意見を聞くことができ、とても魅力的だったし、楽しく濃密な時間を過ごすことができた」と言ってもらえた。

全3回開催したうち、少なくとも20名、多い場合は30名も来ていただき、「行っている活動自体はとても興味深くもっと早く知りたかった」とも言ってもらえた。SNSや新聞などの広告手段を活用して、早い段階から情報を世間に広げていくことが必要だし、その手段についても模索していかなければいけない。

10分間の哲学カフェを、それぞれ2時間開催したが話したりなく「もっと多くの方と色々なお題について語りたかった」という意見があった。

また、通年なら開催回数が2回だったが今回3回と増やしたものの、それでも開催頻度が少なく「もっとたくさん開催してもよいのではないのか」という意見もあった。

【年間スケジュール】

■前期

- ・4月～6月
テーマ設定、シミュレーション
- ・6月～7月
集客、メニュー・アンケートの作成、
1回目哲学カフェ開催

■後期

- ・10月
学校祭準備(メニュー改訂、ポスター)
- ・11月
学校祭2回目哲学カフェ開催、学校祭の反省、
ファイナル哲学カフェの準備
- ・12月
ラスト哲学カフェの開催、反省
- ・1月
地域プロジェクト成果発表会の準備
(原稿作成、パワーポイントの資料制作)

